

1 目指す姿

| | | |
|------------|---------------|--|
| (1) 目指す学校像 | | 1 生徒が学びがいを実感する学校 2 保護者・地域が頼りがいを実感する学校 3 教職員が働きがいを実感する学校 |
| (2) | 育みたい 児童生徒像 | 1 挨拶を大切にする生徒 2 気づきを大切にする生徒 3 命を大切にする生徒 |
| | ありたい 教職員像 | 1 自由闊達な職場風土の中で協働と研修を通して職能成長を図る教職員 2 生徒の成長に使命と情熱を感じる真の教育専門職を目指す教職員 |

2 現状認識

| | | | |
|-----------------------------|---|--|---------------|
| (1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | | ○生徒：学力の向上と進路希望の実現、勉学と部活動の両立 ○保護者：国公立大学への進学を中心とする進路希望の実現、充実した学校生活 ○卒業生・地域住民：地域の伝統的な進学校・中心校としての役割、文武両道にわたる活躍と実績 ○大学：学力と意欲の高い生徒の育成 | |
| (2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | 連携する相手からの要望・期待 | | 連携する相手への要望・期待 |
| | ○PTA：進路希望実現、健全育成、学校情報の発信・提供 ○地域住民：情報発信と地域貢献 ○小中学校：地域の子どもたちを共に育てるとの観点に立った連携・交流 ○地域の関係機関：地域人材の輩出 | ○PTA：教育活動・教育環境充実のための理解・協力 ○地域住民：教育活動への理解・協力 ○小中学校：指導上必要な情報提供等 ○地域の関係機関：キャリア教育充実のための協働態勢 | |
| (3) 前年度の学校関係者評価等 | | ○ 分かりやすい活動・成果指標を設定すべきである。 ○ 各種調査については、クロス集計を行うなど分析方法を工夫すべきである。 ○ 進学校であっても就業体験を実施すべきである。 ○ 普通科の魅力化・活性化を促進すべきである。 ○ ローカルプライドと地域愛を育ててほしい。 | |
| (4) 現状と課題 | 教育活動 | ○ 伊賀地域の中学生の減少に加え、名張市から津市や他府県の高校への進学者が増加傾向にあることから、多様な生徒が本校に入学するようになってきている。習熟度別少数指導や土曜講座等を実施するとともに、ホームルーム担任による個別面談の充実を図るなどして、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る必要がある。 ○ 生徒・保護者の80%以上が国公立大学への進学を希望しているが、合格者は生徒の約30%である。どのような学習指導・進路指導が効果的かを研究し、その成果を学校全体で共有するとともに、進学指導体制の充実と進学実績の向上を図る必要がある。 ○ 人権尊重の態度を身に付けた心豊かな人間形成を目指し、ホームルーム活動を中心に人権教育を実施しているが、昨年度、障がい者を蔑む用語の不適切な使用が発覚した。人権意識を高め、いじめや差別を見抜き、なくそうとする意欲と実践力を身に付けた生徒を育成する必要がある。 ○ 本校には文武両道の伝統があり、生徒・保護者も学習活動とともに部活動の充実を期待している。「進学校」としての役割を果たしつつ、運動や芸術文化活動に関する特別活動・部活動の充実に努め、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を推進していく必要がある。 | |

| | |
|-------|---|
| 学校運営等 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 本校の教育活動の現状や成果が保護者、中学校関係者、地域等に未だ十分に伝わっていない。ホームページを充実させ、学校説明会や授業公開の在り方を工夫するとともに、学校行事を公開するなどして「開かれた学校づくり」を一層進める必要がある。 ○ 勤務時間外に個別指導、分掌業務、教材研究、部活動指導業務等に従事して恒常的に過重労働に陥っている職員や、放課後の会議等で多忙感を持つ職員が多い。平成 28 年度から新たに導入した 2 学期制・65 分 5 限授業の状況も見守りながら、職員間の連携・協働、効率的な学校運営等を一層促進し、過重労働緩和・総勤務時間縮減に向けた取組を積極的に進める必要がある。 |
|-------|---|

3 中長期的な重点目標

| | |
|-------|---|
| 教育活動 | <p>1 目指す学校像「生徒が学びがいを実感する学校」を実現するための重点目標</p> <p>「全教職員による共通理解の下、生徒の『自己指導能力』（その時、その場で、何をすべきで、何をすべきでないかを自ら考え、判断し、行動する能力）を向上させる共通実践を継続することにより、生徒一人ひとりが自律的な学習習慣と生活態度を確立して進路希望を実現し、さまざまな教育活動に主体的・協働的な態度で取り組み、他者と共生する力を身に付けている。」という状態を重点目標とする。</p> |
| 学校運営等 | <p>2 目指す学校像「保護者・地域が頼りがいを実感する学校」を実現するための重点目標</p> <p>「卓越した魅力ある教育活動の推進、学校情報の積極的な提供・発信、学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会の活性化、適切迅速な対応等により、保護者・地域の満足と信頼を安定的に確保しており、その結果、本校への入学を希望する中学生とその保護者が増加する傾向にある。」という状態を重点目標とする。</p> <p>3 目指す学校像「教職員が働きがいを実感する学校」を実現するための重点目標</p> <p>「活気のある明るい組織風土の中で教育活動・学校運営を継続的に改善するための仕組みや教職員間・校内組織間のチームワークが適切に機能するとともに、過重労働緩和・総勤務時間縮減に関する取組が適切に講じられており、大多数の教職員が本校で勤務することに満足している。」という状態を重点目標とする。</p> |

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

| 項目 | 取組内容・指標 | | 結果 | 備考 |
|---|---------|--|---|----|
| ◆アクションプラン 1：全校体制で授業研究に取り組み、学習指導に関する指導力の向上を図ります。 | | | | |
| 学習指導 | 活動指標 | <ul style="list-style-type: none"> ○教科横断的グループによる研究授業・授業評価の実施 ○生徒による授業評価年 2 回実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○年 2 回実施しました。第 1 回目はグループ別検討会に、第 2 回目は全体会実施 ○7 月と 12 月に実施 | |
| | 成果指標 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の授業満足度（「とても満足」と「満足」の計、以下同じ）85%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ○7 月実施 83% ○12 月実施 84.2% | |
| 改善課題 | | | | |
| 教科横断型による研究授業、生徒による授業評価は効果をあげていると思われます。引き続き、教科横断型研究授業・事後検討会、生徒による授業評価を効果的に行う必要があります。 | | | | |

| 項目 | 取組内容・指標 | | 結果 | 備考 |
|--|---------|--|---|----|
| ◆アクションプラン 2：生徒が自己の進路希望を実現できるようキャリア教育の充実を図ります。 | | | | |
| キャリア教育(進路指導) | 活動指標 | <ul style="list-style-type: none"> ○文部科学省教育課程研究指定校事業(総合的な学習の時間)を核に据えた「進学型キャリア教育」の計画的・系統的実施 ○「進学型インターンシップ」の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○「総合的な学習の時間」において「地域貢献夢プログラム」を核に据え、1 年生では「地域学習フィールドワーク・ポスターセッション」等を、2 年生では「地域プロデュース」を伊賀市等の関係機関と連携として実施 ○キャリア(自分自身の生き方を磨いていく事)向上に向けて上記の取組を新規実施 | ◎ |
| | 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ○第 1 学年生徒の総合的な学習 | <ul style="list-style-type: none"> ○2 月下旬にアンケート実施予定 | |

| | | | | |
|--|----|---|--|--|
| | 指標 | の時間の授業満足度 82%以上 ○国公立大学合格者数第3学年クラス平均 10 人以上 | ○2月15日現在 国公立大学合格者(推薦・AO)6名、出願者前期123名、中期・後期114名 | |
|--|----|---|--|--|

改善課題

年間を通して、伊賀地域に関する探究的・協働的な学習活動に取り組みましたが、生徒の自己評価の中には、取組前と比較して伸びがみられない項目が認められる結果となりました。その要因としては、地域の人々との直接の関わりを十分に持てなかったことから、その生き様や地域への思いを知ることや、地域から期待されている存在であることを実感するところまで至らなかったからではないかと分析しています。今後の改善の方向性として、「地域を支え、地域の発展に貢献する人材を育成する」ためには「自己肯定感」の育成が極めて重要だと考えています。

| 項目 | 取組内容・指標 | | 結果 | 備考 |
|---|---------|---|---|----|
| ◆アクションプラン3：卓越した理数科教育を推進します。 | | | | |
| 理数科 | 活動指標 | ○アクティブ・ラーニング型授業を専門科目の60%以上で実施 ○高大連携先の新規開拓 ○「総合的な学習の時間」、「課題研究」の授業運営方法の確立 | ○すべての専門科目でアクティブラーニング型授業を実施 ○三重大学教育学部 磯部先生 山形大学工学部 中林先生(本校 OB) ○昨年度の運営方法を基に、ワークシートを作成 | |
| | 成果指標 | ○生徒の各活動満足度 90%以上 | すべて活動において 90%以上 | |
| 改善課題 | | | | |
| アクティブラーニング型授業について、効果的な実施を模索し、より良い理数科教育を推進する必要があります。 | | | | |

| 項目 | 取組内容・指標 | | 結果 | 備考 |
|---|---------|---|--|----|
| ◆アクションプラン4：人権教育を積極的に推進します。 | | | | |
| 人権教育 | 活動指標 | ○人権学習LHRを各学年年1回以上公開 ○教職員の全体研修、小グループ研修をそれぞれ年2回以上実施 ○全教職員がフィールドワークに年1回以上参加 ○生徒が主体的に取り組む小学生との交流会を年2回以上実施 ○担任による日常的な家庭・地域・中学校・関係機関との連携(家庭訪問、教育集会所訪問等) | ○1学年は11/1(参加者9名)、2学年は11/29(参加者7名)、3学年は6/28(参加者2名)に実施し、事後検討会も実施 ○校内職員研修は、6/23と10/31に全体研修を、6/14と8/23と10/3にフィールドワークを実施。職員小グループ研修は4～5月と2月に実施。小学校との交流は、人権サークルのメンバーが10/13に上野西小学校を、11/17に上野東小学校を訪問して実施○適宜実施 ○上野西小学校との人権交流会を10/10に、上野東小学校との人権交流会を12/8に実施 | |
| | 成果指標 | ○人権問題の解決に向け主体的に考え、実践できる生徒の増加 | ○人権サークルに、新たに1年生6名、2年生3名が入部。伊賀地区ヒューマンライツクラブ風に参加する生徒も、年度後半には6名に増加。小学生との人権交流会では、吹奏楽部・ギターマンドリン部・HR運営委員の約50名の生徒が参加 | |
| 改善課題 | | | | |
| 人権学習の授業公開の参加者を増やすために、より早い段階から校外に発信することが必要です。部落問題等に加え、新たに性的マイノリティについての学習を早急に実施する必要があります。校内職員研修の内容は、全教職員参加のフィールドワークなど、充実しているのでこれを維持していくことが大切です。 他校の人権サークルの活動との交流を深め、実践力をさらに高める必要があります。 | | | | |

| 項目 | 取組内容・指標 | | 結果 | 備考 |
|---|---------|--|---|----|
| ◆アクションプラン5：生徒理解を深め、生徒の自己指導能力を高める指導を推進します。 | | | | |
| 生徒指導 | 活動指標 | ○登校指導、着こなし指導等共通実践を年5回以上実施 ○保健講話またはメンタルヘルス講演会を各学年1回実施 ○支援を必要とする生徒に関する事例検討会を適宜実施 | ○各学期始めの登校指導、頭髪服装指導、学校周辺での交通指導等5回以上実施 ○保健講話(2学年・5月)、メンタルヘルス講演会(1学年・6月、3学年・9月)に実施 ○教育相談事例検討会を11月に実施 | |
| | 成果指標 | ○問題行動による特別指導件数年3件未満 | 1月末現在、学校謹慎(2件)、校長訓戒(6件) | |
| 改善課題 | | | | |
| 登校指導や頭髪服装指導、日常の指導での成果は上がっているものの、組織で対応できる指導体制の確立する必要があります。増加する特別指導対策として、年々多様化する生徒の自己指導能力を更に高める取組が必要です。 | | | | |

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | | 結果 | 備考 |
|---|---------|--|--|----|
| ◆アクションプラン6：学校情報を積極的に提供・発信し、広報活動を強化します。 | | | | |
| 情報発信 | 活動指標 | ○ホームページ掲載件数(更新履歴件数)年60件以上 ○中学生向けリーフレットの更新・配布 ○生徒主体の学校説明会(体験授業を含む)年2回開催 | ○上高ニュースとして20件更新 ○10月に作成し、伊賀管内のすべての中学3年生に配布 ○理数科体験講座への生徒参加119名、高校生活入門講座への参加生徒375名、参加保護者160名 | ◎ |
| | 成果指標 | ○平成30年度後期選抜普通科・理数科合計入学志願倍率1.1倍以上 | ○1.04倍 | |
| 改善課題 | | | | |
| 減少したHPの更新数を増やすとともに、各中学校での進路説明会での発表内容を再編するとともに、本校の求める生徒像を地域の中学校に丁寧に説明することにより、志願者増を図る必要があります。 | | | | |

| 項目 | 取組内容・指標 | | 結果 | 備考 |
|---|---------|--|--|----|
| ◆アクションプラン7：地域の発展に貢献します。 | | | | |
| 地域貢献 | 活動指標 | ○明治校舎HAQUAホールでのイベント年3回以上開催 ○教科・部活動等による地域貢献活動計年15回以上実施 | ○音楽リサイタル1回 ○吹奏楽部、ギター・マンドリン部、2年家庭科選択生、音楽交流会など17回実施 | |
| | 成果指標 | ○マスコミ報道年3回以上 | ○マラソン大会、茶道部、新聞部、東海総体ポスター | |
| 改善課題 | | | | |
| 本校の取組・成果を目で見える形で地域に発信する必要があります。また、「上高みらい学」の内容をより効果的にすることで、将来的に地域の発展に貢献する人材を育成する必要があります。 | | | | |

| 項目 | 取組内容・指標 | | 結果 | 備考 |
|---|---------|--|----|----|
| ◆アクションプラン8：学校運営を継続的に改善する仕組みを整備するとともに、水曜日早帰り推奨デーの設定、週1回の部活動休養日の設定、学校組織として動き会議時間の最適化等を通じ、過重労働緩和・総勤務時間縮減を学校全体で進めます。 | | | | |

| | | | |
|----------|------|---|---|
| 職員満足度の向上 | 活動指標 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校の魅力化・活性化の具体方策を提言する有志職員チームの立ち上げ ○校内組織内・間の情報共有及び報告・連絡・相談・確認の徹底 ○月あたり時間外労働時間5% (1.8時間)削減、年あたり休暇取得日数1日増加 | <ul style="list-style-type: none"> ○中学校向けリーフレット(更新・配付)原案作成のために数回打合会を開催 ○学校経営委員会の機能を高め、組織的な運営を強化 ○2月時点での過重労働時間は昨年度比27%(9.7時間)削減。休暇取得は1.1日増加 |
| | 成果指標 | ○教職員満足度調査の学校満足度に関する項目で「概ね満足」以上と回答した教職員75%以上 | ○72.13% |

改善課題

伊賀地域からの厚い期待に応えるために、魅力的な学校づくりを改革の中心とするとともに、働く教職員が一丸となって改革に参画できるよう、学校経営委員会を要とした組織づくりをさらに強める必要があります。さらには、一人一人の教職員の満足度を高めるために、働き方改革及び部活動指針を軸とした取り組みが必要です。

5 学校関係者評価

| | |
|--------------------|---|
| 明らかにした改善課題と次への取組方向 | <ul style="list-style-type: none"> ○2学年の生徒、保護者対象に実施している重要度・満足度調査の結果を基に、満足度が低い項目については高める努力が必要である。 ○上高みらい学等を通じ、地域のことを考え、将来予測できない課題を自らが判断し解決に向ける取組は素晴らしい。 ○上野高校が抱える課題は、地元中学校が抱える課題でもあるので、小中高の連携を更に図って欲しい。 |
|--------------------|---|

6 次年度に向けた改善策

| | |
|--------------|---|
| 教育活動についての改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ○習熟度の差の大きい生徒集団の学力を保障するために、必要に応じて平常時から補習等を行う。 ○学校教育活動のあらゆる場面で、生徒の言語能力を高める取組を推進する。 ○総合的な学習の時間では、地域の多様な主体と更に連携・協働して、ローカルプライドを有し、グローバルな視点で考え、行動するグローバル人材の育成を目指す教育活動を推進する。 |
| 学校運営についての改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ○教職員が満足感を持って勤務できるよう、学校安全衛生委員会の活性化を図り、多忙感解消のための具体的な方策を検討し、全教職員の共通理解の下で実施する。 ○学校情報の発信・提供の在り方について検討するとともに、施設面の「強み」である明治校舎の活用方法について地域貢献の観点から検討する。 |